

社団法人 日本循環器学会
2008年度第3回理事会議事録

日時 2009年(平成21年)1月23日(金) 14時30分~17時30分
場所 東京国際フォーラム ガラ棟 6F(602)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

理事現在数:20名

出席:和泉 徹、小川 聡、小川久雄、北 徹、児玉逸雄、坂田隆造、島田和幸、島本和明、
下川宏明、鄭 忠和、友池仁暢、永井良三、堀 正二、堀江 稔、松崎益徳、水野杏一、
室原豊明、山岸正和
欠席:高本眞一、土居義典

その他出席者

監事:青沼和隆、今泉 勉
幹事:池田 義、大津欣也、白山武司、寺崎文生、西垣和彦、野々木宏、野原隆司、藤井崇史、
藤井崇史、藤田正俊、堀内久徳、松本鉄也、松森 昭、南野哲男

ワザバ:佐地 勉(日本小児循環器学会) 村松孝夫(財団法人日本心臓財団)

事務局:加藤安雄(事務局長) 清水光則(事務局長代理)

・議事

第1号議案 事業報告・事業計画および収支予算案

- 1) 2008年度事業報告および2009年度事業計画
- 2) 2008年度収支補正予算案および2009年度収支予算案

第2号議案 公益法人制度改革

第3号議案 新入会員承認

第4号議案 2009年度就任名誉会員・特別会員の推薦

第5号議案 第76回学術集会会長選出について

第6号議案 委員会報告

- 1) 財務委員会
- 2) 用語委員会
- 3) 教育研修委員会
- 4) 心臓移植委員会
- 5) 健保対策委員会
- 6) コメディカル委員会
- 7) 国内交流委員会
- 8) 医療安全・医療倫理委員会
- 9) 編集委員会
- 10) 専門医制度委員会
- 11) 情報広報委員会
- 12) 学術集会プログラム委員会
- 13) 学術集会運営委員会
- 14) 学術委員会
- 15) 国際交流委員会
- 16) 循環器救急医療委員会
- 17) 総務委員会

第7号議案 年次学術集会報告

- 1) 第73回年次学術集会報告
- 2) 第74回年次学術集会報告

第8号議案 委員会委員承認

第9号議案 その他

- 1) 理事会日程確認

・議事の経過及び結果

- 1) 定刻になり、小川理事長が議長となり開会した。
- 2) 藤田総務幹事から、出席者数は定款第25条の定数を満たし、理事会が成立していると報告が

あった。

- 3) 議長が、議事録署名人として第73回堀会長と第74回北会長を指名し、了承された。
- 4) 藤田総務幹事から、配布資料および回覧資料の確認があった。
- 5) 資料に記載の6名の物故会員のご逝去に対して、黙祷が捧げられた。
- 6) 前回理事会議事録の確認がなされた。

第1号議案 事業報告・事業計画および収支予算案

- 1) 2008年度事業報告および2009年度事業計画
藤田総務幹事から、資料の通り報告があり、承認された。
 - 2) 2008年度収支補正予算案および2009年度収支予算案
野原幹事より、各々の予算案説明にあたり、既に予算委員会及び財務委員会にて審議検討されており、詳細については、事前送付している配付資料をご確認いただくよう報告があった。
また、概要について簡潔に説明され、次の点が確認された。
 - ・各委員会からの申請内容の殆どを予算化したこと。
 - ・一般会計では、いずれの年度も、支出が収入を上回った結果となっており、事務局設備投資、Translational Research、APCC2009助成等国際交流事業について、関連事業に対応する基金の取り崩し使用を予算化したこと。
 - ・専門医特別会計では、5年サイクルの更新者数増となる2009年度は、次回のサイクル年までの事業費に充てるため、基金への積み増しを予算化したこと。
 - ・第73回及び第74回会長の学術集会特別会計は、申請通りとするが、第74回2009年度は例年同様、事業計画が明らかになる今秋に、予算を見直すこと。
 - ・各支部から申請の支部特別会計及び地方会特別会計は申請通りとしたこと。
- 以上より、全5会計の補正予算案及び2009年度予算案が資料の通り示され、承認された。

第2号議案 公益法人制度改革

小川理事長から、新しい公益法人制度への移行作業に関して以下の通り報告があった。
定款及び定款施行細則の変更案について、規約審議部会で顧問弁護士も交えて検討を進めている。これまで2009年度中の新法人への移行申請を準備してきたが、現評議員の任期は2008年4月から2012年3月までであるので、現評議員は途中で退任していただくことになる。この点について、現評議員に承認を頂く必要がある。
新しく公益社団法人になった場合、ある別団体の理事がJCS理事会の3分の1以上を占めてはならないという決まりがあり、新公益法人に移行した時点で他の学会の理事職などを調整する必要がある。
総務委員会で、について意見交換した結果、他の学会の動向をみて歩調をあわせること、現評議員の任期終了に併せて移行申請をする、そのため2009年4月の申請は見合わせることで合意された。
新定款の施行に併せて実施する予定であった会員の処分等に関する規程については、別途早急に検討する。

以上について、承認された。

第3号議案 新入会員承認

藤田総務幹事から、2008年6月1日から2008年11月30日までの新入会員385名が資料に基づいて説明され、承認された。

第4号議案 2009年度就任名誉会員・特別会員の推薦

議長から、2009年度就任の名誉会員・特別会員の推薦について報告があった。討議の結果、名誉会員として藤原久義氏および横山光宏氏を理事会として推薦することが承認された。なお今回は特別会員への推薦はなかった。

第5号議案 第76回学術集會会長選出について

会長の選出に先立ち議長から、年次学術集會会長候補者が理事会で複数推薦された際の「会長選挙に関する合意事項」について資料の通り提案があり、一部文言修正の上、承認された。また、2012年3月開催の学術集會については、資料の通りWCC招致との関連があるため、これを前提として選出することが要請された。

続いて会長の選出に入り、第76回会長について議長は議場に推薦を求めた。これに対して、和泉徹理事と鄭忠和理事が推薦された。この二人について選挙した結果、鄭忠和理事11票、和泉徹理事6票、白紙1票という結果となり、鄭忠和理事が第76回会長として選出され、承認された。

その後、第76回会長鄭忠和理事から挨拶があった。

第6号議案 委員会報告

1) 財務委員会

北委員長から以下の点について報告があった。

「C」の広告申込が減っており喜ばしくない状況において、ガイドライン二次利用は利益を目的とするものではないが、収入源として考慮して欲しいこと。

2006年度以降財産が減少していることを危惧しており、年会費値上げをせずに事業の合理化や諸策等工夫をして欲しいこと。

東海支部が行った「世界ハートに日」に対する寄付について、寄付金取扱規程第6条2の手順に倣い、理事長及び財務委員長は承認済みで、理事会において事後承認頂きたいこと。

また、「寄付金取扱規程」の遵守を促すとともに、外部への寄付は禁止である旨再確認いただきたいこと。

公益申請に関する会計面について、配付資料の内容を検討し決定したが、第2号議案で申請が延期されたため、内容説明について省略すること。

以上、について理解と協力を求められ、は承認された。

また、については、国際学会が年会費、参加費値上げの動向にあることや、当学会活動が活発化してきていることから、年会費値上げはやむを得ないのではないかとの意見があり、引き続き、諸策等検討、実施したうえで判断することとなった。

引き続き、今泉監事より、2008年4月から10月までの会計及び業務について、監査結果が資料の通りであることが報告され、承認された。

2) 用語委員会

山岸委員長から以下の通り報告があった。

用語集出版後に寄せられた意見について検討し、必要な修正を行っている。修正については、HP上で公開していく。

日本医学会の用語委員会から随時用語に関する問合せがあり、JCSとしての回答をしている。

以上について、承認された。

3) 教育研修委員会

堀江委員長から下記の通り報告があった。

毎年夏季に開催している「循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナー」について、あらたに6名の企画ワーキンググループを組織し、ワーキンググループ長に中川義久委員(天理よろづ相談所病院)を指名した。2月18日(水)にキックオフ会議を行う。

以上について、承認された。

4) 心臓移植委員会

島田委員長から以下の通り報告があった。

2008年12月31日現在の心臓移植および心肺同時移植適応検討の状況については資料のとおりであるが、今年に入ってから心臓移植が2例実施され、国内での心臓移植は15歳未満2名を含めて60名となった。また、心肺同時移植については、国内初の移植が大阪大学にて1月17日実施された。

第73回学術集會会期中に第5回心臓移植セミナーを開催する。今回は国内移植患者からも発表いただく予定である。

心臓移植適応検討に関する意見交換および臓器移植法改正後の対応を検討するため、移植実施施設と本学会委員が集まり第73回学術集會会期中に意見交換会を開催する。

第73回学術集會の参加者に臓器提供意思表示カードとグリーンボンナッツを配布し、カード普及のための広報活動を行う。

外科系学会が臓器移植法改正を推進する議員連盟の設立趣意書・名簿を学会ホームページに掲載しており、心臓移植に関与する本学会でも、ホームページに掲載することとなった。

以上について、承認された。

5) 健保対策委員会

和泉委員長から下記の通り報告があった。

平成 20 年度のデータにより、現在の診療報酬の問題部分について検討している。既に検討しているフローランの DPC からの外出しについては、早急に要望を提出する予定である。また EPS の採算割れについては、実際に EPS カテテルが使われていない例が含まれているために欠点となっていることが判明している。

平成 22 年度の診療報酬改定に向けて、各専門分野で問題がある点を指摘いただければ、委員会でデータを元に検討し、要望として提出していきたい。

ケアリンクシステムについて、要望書を提出する。

以上について、承認された。

6) コメディカル委員会

水野委員長から以下の通り報告があった。

準会員制度の導入を意識し、コメディカル委員会が行う事業について検討した。具体的には、学術集会におけるコメディカルセッション、教育後援、シンポジウム、講習会や、コメディカルに係る資格認定等を検討している。準会員が増えるような魅力あるものを検討したい。

上記については、各学協会が既に実施しているものもあるので、関係方面と連絡を取りながら進めていきたい。

以上について、承認された。

7) 国内交流委員会

島本委員長から下記の通り報告があった。

ICD-CRT 研修制度に関する協議会について、資料のとおり各学会からの委員が決まっている。今後協議会の規約をつくり、春頃から活動を開始する予定である。

業者立ち会い有償化に関する検証作業について、2008 年秋にアンケート調査を実施した。その結果、9 割の施設で何らかの対応を取っていることが判明した。今後 HP での紹介や評議員への案内等により、各施設で対応を強化していただくよう依頼する。

以上について、承認された。

8) 医療安全・医療倫理委員会

永井委員長から以下の点について報告があった。

臨床研究に関する倫理指針(改訂)について。厚生労働省告示第 415 号において「臨床研究に関する倫理指針」が改訂施行された。文部科学省より同改訂の周知徹底要請を受け、日本循環器学会ニューズメール(臨時)を本委員会より発信した。

鑑定人推薦について。2008 年 9 月最高裁判所より依頼を受け「平成 17 年(ネ)第 2952 号損害賠償請求控訴事件」について鑑定人候補者を推薦した。

以上について承認された。

9) 編集委員会

下川委員長より以下の通り報告があった。

2008 年投稿論文の実績は配布資料の通りである。

2009 年 Vol. 73 より、表紙・目次・本文レイアウトを一新するとともに、国内外の先生に依頼した Review Article Series、査読者に依頼の Editorials を始めた。また、査読者への感謝を表す為、Best Reviewers of the Year を新設したことが報告された。

今後の目標として、Experimental Investigation の増加を検討している。

CJ 送本につき、会員約 23,000 人へのアンケートの結果(回収率 10%、内不要者 65%)を受け、委員会として、CJ を希望者のみに送本することを決定した。

第 5 回 Circulation Journal Award 受賞者が以下の通り決定した。Clinical Investigation: 最優秀賞・寺本民生先生(帝京大学医学部内科) 優秀賞・吉永正夫先生(鹿児島医療センター小児科) Experimental Investigation: 最優秀賞・池島英之先生(和歌山県立医科大学 循環器内科) 優秀賞・正司真先生(昭和大学病院 第三内科)

以上について、承認された。

10) 専門医制度委員会

土居委員長欠席のため寺崎幹事から以下の通り報告があった。

日本集中治療医学会より関連学会認定の申請があり、検討された結果、2009年4月1日付けで関連学会（専門医研修単位1単位付与対象学会）として認定することが認められた。

日本専門医制評価・認定機構（以下、機構）から指摘のあった当学会専門医制度の問題点について、下記のとおり改善を行うこととなった。

1) 循環器内科の専門医の医師像については、下記のとおり決定した。今後は、2009年3月に開催される評議員会にて承認後、日本循環器学会のホームページなどで公表していく予定である。

「循環器専門医は、心臓・血管系に関する豊富な知識と技能を有し、心筋梗塞、狭心症、高血圧、動脈硬化、弁膜症、心不全、不整脈、などの循環器疾患の適切な診断・治療及び予防ができる能力を有する。」

2) 当学会では、現在指導医制度がないため、指導医制度ができるまでの体制として、研修カリキュラムを基に「循環器専門医研修カリキュラム手帳」を作成することとなった。なお、手帳による達成度評価を行えるまで、下記の方法をとる。

・2009年度（第20回試験）については各項目の達成目標レベルを達成している場合は○印を、いない場合は×印を、研修カリキュラムチェック表に申請者がチェックした後、申請者が研修した最終の研修・研修関連施設の循環器専門医である責任者に確認をもらった上で提出する。

・2010年度（第21回試験）以降については上記の責任者が申請者と面談の上、達成度評価を行う。

3) 認定更新の際の必須研修内容については、検討の結果資料のとおり進めることになった。

・認定更新に必要な研修単位（50単位）のうち、必須研修内容の配分を次のとおりとする。

A) 最新医療の知識習得に関する研修・・・30単位

当学会主催の学術集会・地方会（いずれの場合も教育セッションも含む）への参加

B) 医療倫理・安全・法律に関する研修・・・2単位

学術集会開催時の医療安全・医療倫理講演会への参加あるいはインターネットでの視聴研修プログラムによる研修（地方会で映像を放映し、1セッションとして単位を加算することについては今後検討を行う。）

・適用更新年度について

インターネットでの視聴研修プログラム構築期間および構築後の研修期間を1年間設けて、2012年度更新者から適用とする。なお、経過処置はなしとする。

・留学による特別措置について

A) 認定期間中に海外へ留学しているため、当学会主催の学術集会・地方会に参加できない場合は、WCC、AHA、ACC、APCC、ESCなどの海外学会への参加を、最新医療の知識習得に関する研修として15単位を付与する。なお、1年間に何回参加しても1回分の研修単位のみ加算することになった。

B) 留学単位は必須研修以外の区分として現状通り帰国後1ヶ月1単位として加算する。帰国後、単位申請書および在籍証明書のコピーを提出することが必須条件。

C) 更新日（各年度4月1日）をまたいで留学中の場合は、現状通り研修単位を充足していなくても自動更新を申請し、更新することができる。

以上について承認された。

11) 情報広報委員会

坂田委員長から以下の通り報告があった。

英文ホームページのリニューアルが10月30日に完了し本番UPされたことが報告された。

JCS News Letterの配信件数について、現状開封率は50%から55%だが有効配信件数は順調に増加していることが報告された。

第3回プレスセミナーについて、2009年9月27日の世界ハートの日にちなみ、2009年9月25日（金）に、「循環器疾患の救急医療」をテーマに開催することが報告された。座長は榊原記念病院の高山守正先生に依頼する。

会員限定ホームページの今後のあり方については、引き続き審議を行うことが報告された。

JCS ニュースレターに掲載されている海外ニュースとホームページに掲載されている World Circulation Newsの内容が似ているため、2009年度より World Circulation News を廃止する。

以上について、承認された。

12) 学術集会プログラム委員会

松崎委員長から以下の点について報告があった。

2008年12月12日に開催された第2回学術集会プログラム委員会において第74回学術集会（北徹会長）のプレナリーセッションが5題、シンポジウムが24題、ジョイントシンポジウム4題の座長と演題タイトルが確定した。

KSC-JCS ジョイントシンポジウムについて、今後、開催の要否の検討も含めて国際交流委員会セッション扱いとして委譲する。

2011年5月に開催される日本医学会総会（矢崎義雄会長）のプレシンポジウム企画について登録推進のための事前活動として、第74回学術集会シンポジウムプログラムの一部を日本医学会総会と共催とする。

以上について、承認された。

13) 学術集会運営委員会

児玉委員長から以下の点について報告があった。

「日本循環器学会留学生支援基金」規定、応募要項および申請書について、2009年から開始する。2009年度の応募締切は7月31日（金）とし、10月学術集会運営委員会で審査、11月30日（月）対象者の公表を行う。

学術集会演題募集システムの開発について、現在無料提供されているUMINのシステムを利用しているが、日本循環器学会の希望に沿ったプログラム変更が困難であること、メンテナンス面で緊急の対応ができないなど長年の問題点が浮き彫りになり、新たに日本循環器学会独自の演題応募システムを導入する。システム会社については2社からの相見積の結果、株式会社プロアクティブを採用した。開発費が約500万円、運用費が年間約32万円である。第74回学術集会会長の北先生の了承を得ており、第74回学術集会演題募集から新システムの運用を開始する。

高安賞の基金規定と八木賞の基金規定修正について、「本基金は、原資終了時点で終了とする」を追記した。

「内田賞」について、今までの内田康美先生と小川理事長と児玉委員長連名による文書でのやり取りの経緯が説明された。日本循環器学会から提案したの賞名称の「高度先進医学循環器学会賞」に対して、公益信託循環器学研究振興基金の褒賞「内田賞」年1,000万円の一部を受賞者に授与する。

「内田」という冠が消えることについては、公益信託からの寄付は法律上文部科学大臣の許可がなければできないことなど、文部科学省の判断と基金を委託している住友信託銀行の意見待ちであるとの報告を受けた。内田先生からの回答を待ってから再審議される。

国内外招待者待遇について、教育セッションのライブデモンストレーションの術者に対する謝金は「会長判断」とする。

参加費体系について、日薬連寄付依頼の際、自助努力不足が指摘がされることもあり、会員参加費1万5,000円を2万円程度に上げる必要があるのではないかという意見が出され、継続審議となった。

以上について、承認された。

14) 学術委員会

堀委員長から以下の通り報告があった。

2009年度発足が検討されていた「小児科循環器診療に関するガイドライン」は、小児循環器学会のガイドラインに類似するガイドラインがあるため、今回は当会のガイドラインとしては策定しない。2007年循環器疾患実態調査報告書最終版が完成した。

第73回学術集会時にガイドラインセッション「ガイドラインに学ぶ1～3」「ガイドライン解説1～6」を開催する。

2009-2010年度活動新規ガイドライン作成の1班、2009年度活動改訂版ガイドライン6班及び2009年度活動第2回改訂版2班について、資料の通り班構成が決定した。

「急性心筋梗塞(ST上昇型)の診療ガイドライン：高野照夫班長」の参加学会に日本救急医学会と日本動脈硬化学会が追加された。

Translational Research 振興については、「応募要領及び募集書類」に「特許の申請及び取得状況に関する記載欄」を追記、また、「共同研究の代表者は会員とし、班組織は数名の日本循環器学会会員より構成されるものとする。」を修正した上で、資料の通り2009年度から開始する。2009年度は1～2件を採択する予定であるが、該当する事業がない場合は、対象なしとする。

ガイドラインの英訳作成については、再度各班長にアンケートを実施し、英訳に適するガイドラインを4～7件に絞込みダイジェスト版のみを作成する。

ガイドラインと保険適用の齟齬については、第1回の各班長へのアンケート結果により、「クラス、クラス a」に分類されている中で保険適用されていない項目があることが判明した。については、厚生労働省に保険適用の許可要請を提出していく項目を再度各班長にアンケートし意見集約を行う。

ガイドラインの利益相反については、現状では班員、協力員、外部評価委員からの自己申告書を事務局で保存している。日本内科学会における総論案が2009/4/1から施行となることを受け、足並みを揃えて実施する。

ステントグラフト実施基準策定委員会から運営費用として10万円の拠出金依頼があったため拠出する。

日本循環器管理研究協議会から予防に関する活動の要望書が提出されたことを受け、和泉徹委員を主査とし予防部会を設置することにし、和泉委員長に部会委員の推薦を依頼した。

以上について、承認された。

15) 国際交流委員会

鄭委員長から以下の通り報告があった。

2008年11月10日にWHF Member's meetingが開催され、松森昭先生が出席した。

2010年4月に就任する新国際名誉会員候補者をPeter Libby(アメリカ)、Valentin Fuster(アメリカ)、Patrick W. Serruys(オランダ)とする。また、授与式(認定年度)に出席する国際名誉会員には\$1,000を副賞とすることについて、規約の改訂を行う。

応募要領の趣旨に「アジアから日本へ留学して循環器学領域で研究を行っている若手研究者」を対象とするとの記載があり、今後は応募要領のアジア限定の文言は外す。

ACC-JCS コラボレーションについては、今後時間をかけて検討する。

これまで国際交流委員会の小委員会として活動してきたWCC招致準備委員会が今後は正規の委員会として独立する。

以上について、承認された。

16) 循環器救急医療委員会

小川久雄委員長から資料の紹介とともに下記の通り要請があった。

BLS/ACLS 事業について各支部の活動にかなりの差があるので、活発化するよう協力をお願いしたい。

これについて他の理事より、BLS/ACLSが支部会計を圧迫している、継続的にコース開催をして受講者を増やす努力をするべき等の意見があった。

また小川委員長より、委員会で財政面についての検討を行うとの発言があった。

17) 総務委員会

小川聡委員長から下記の通り報告があった。

定款・定款変更案について検討した。

2009年3月31日末で2年間の会費未納により退会となる予定の会員について、理事及び各支部から確認していただくよう要請した。

各支部から推薦があった2009年度就任の評議員・正会員代表(任期:2011年度総会まで)について承認した。

大学等施設の共同利用・共同研究拠点化について、要請のあった岐阜大学人獣感染防御研究センターおよび東京医科歯科大学難治疾患研究所に対してサポートレターを発行する。

日本動脈硬化学会学会賞に、JCSから平山篤志氏(日本大学教授)を推薦した。

複数候補者となった場合の会長選出方法について、合意文書をまとめて理事会に上申した。

以上について、承認された。

第7号議案 年次学術集会に関する件

1) 第73回年次学術集会報告

第73回学術集会堀正二会長から以下のとおり報告があった。

一般演題応募数は3,905演題、採択演題は2,344演題(採択率約60%)であった。

コメディカルセッションは、一般演題は361演題応募があり今回初めてオーラルを一部採用した。今回、一般演題ポスターでデジタルポスターを一部採用する。会期前の所定期間中に発表データを登録する。会期中は会場内に設置された専用パソコン端末で自由に閲覧が可能となる。発表は紙が

スターと同様に座長の進行のもとにおこなわれるが、必要に応じて発表データに動画を使用することも可能となる。

会長特別企画としてはグローバルゼーションを意識して、世界の各国の地域の代表の先生にそれぞれの国の Cardiovascular risk、それに対する対策についてのセッション企画を行う。

2) 第74回年次学術集会報告

第74回学術集会北徹会長から以下のとおり報告があった。

メインテーマは、「知の集約による真理の探究～基礎と臨床の融合～」Exploring uncharted depths in cardiovascular medicine: Basic and clinical medicine unified とし英文を改訂した。

真下レクチャーはトロンベンジセプターの発見者である Dr. Shaun R. Coughlin、美甘記念講演は IPS 細胞を確立された山中伸弥先生に決定した。

特別講演 14 名の内諾が取れている。

モーニングレクチャー20、コントロールシー、ラウンドテーブル、トピックス、ミート・ザ・エキスパート計 32 などを予定している。

第8号議案 委員会委員の承認

議長から、前回理事会以後に生じた各委員会の設置及び委員等の異動について資料の通り報告があり、国際交流委員会報告で述べられた WCC 招致準備委員会の本委員会への格上げを含めて、承認された。

第9号議案 その他

1) 理事会日程確認

議長から、今後の理事会の日程について資料の通りである旨、確認があった。

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の議事についての謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人、これに署名押印する。

2009年1月23日

社団法人 日本循環器学会 2008年度第3回理事会

(署名)

(捺印)

議長 小川 聡

議事録署名人 堀 正 二

同 北 徹